

---

令和7年 第139回（定例）新 温 泉 町 議 会 会 議 録（第3日）

令和7年9月5日（金曜日）

---

議事日程（第3号）

令和7年9月5日 午前9時開議

- 日程第1 諸報告  
日程第2 一般質問  
日程第3 議案第67号 令和7年度新温泉町一般会計補正予算（第2号）について  
日程第4 議案第68号 令和7年度新温泉町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について  
日程第5 議案第69号 令和7年度新温泉町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について  
日程第6 議案第70号 令和7年度新温泉町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）について  
日程第7 議案第71号 令和7年度新温泉町浜坂地区残土処分場事業特別会計補正予算（第1号）について  
日程第8 議案第72号 令和7年度新温泉町七釜温泉配湯事業特別会計補正予算（第1号）について  
日程第9 議案第73号 令和7年度新温泉町一般会計補正予算（第3号）について
- 

本日の会議に付した事件

- 日程第1 諸報告  
日程第2 一般質問  
（1）3番 澤田 俊之君  
（2）7番 浜田 直子君
- 

出席議員（16名）

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1番 中 村 茂君    | 2番 西 村 龍 平君  |
| 3番 澤 田 俊 之君  | 4番 米 田 雅 代君  |
| 5番 岡 坂 遼 太君  | 6番 森 田 善 幸君  |
| 7番 浜 田 直 子君  | 8番 河 越 忠 志君  |
| 9番 竹 内 敬一郎君  | 10番 重 本 静 男君 |
| 11番 岩 本 修 作君 | 12番 宮 本 泰 男君 |
| 13番 中 井 勝君   | 14番 中 井 次 郎君 |
| 15番 小 林 俊 之君 | 16番 池 田 宜 広君 |
-

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 島 木 正 和君 書記 ..... 中 家 亨君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ..... 西 村 銀 三君 副町長 ..... 西 村 徹君  
教育長 ..... 森 田 篤 志君 温泉総合支所長 ..... 小 谷 豊君  
牧場公園園長 ..... 廣 瀬 泰 徳君 総務課長 ..... 中 井 勇 人君  
企画課長 ..... 西 脇 一 行君 税務課長 ..... 石 原 通 孝君  
町民安全課長 ..... 村 尾 国 治君 健康課長 ..... 島 田 秀 則君  
福祉課長 ..... 松 本 晃 君 商工観光課長 ..... 谷 口 薫君  
農林水産課長 ..... 原 憲 一君 建設課長 ..... 森 田 忠 浩君  
上下水道課長 ..... 谷 岡 文 彦君 浜坂病院事務長 ..... 松 岡 宏 典君  
介護老人保健施設ささゆり事務長 中 島 昌 彦君 会計管理者 ..... 山 本 幸 治君  
こども教育課長 ..... 朝 野 繁 君 生涯教育課長 ..... 中 尾 良 平君  
調整担当 ..... 谷 口 修 一君 代表監査委員 ..... 島 田 信 夫君

午前9時00分開議

○議長（池田 宜広君） 皆さん、おはようございます。

第139回新温泉町議会定例会3日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、2日目に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては、格別の御精励を賜り、議事の円滑な運営に御協力を賜りますようお願いをいたします。

ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しておりますので、第139回新温泉町議会定例会3日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第1 諸報告

○議長（池田 宜広君） 日程第1、諸報告に入ります。

議会運営委員会が令和7年9月4日に開かれておりますので、委員長から報告をお願いいたします。

岩本委員長。

○議会運営委員会委員長（岩本 修作君） おはようございます。それでは、議会運営委員会の報告をさせていただきます。

委員会の開催日は、昨日9月4日、本会議終了後であります。

協議事項について報告をいたします。第139回新温泉町議会定例会提出議案、議事運営についてでございます。

町長提出追加議案についてです。議案が1件で、補正予算案です。議案第73号、令和7年度新温泉町一般会計補正予算（第3号）についてです。

次に、議事日程及び議事運営についてですが、資料に掲載していますので、御清覧のほうをよろしくお願ひします。

以上で報告といたします。

○議長（池田 宜広君） 次に、議会広報調査特別委員会が令和7年9月4日に開かれておりますので、委員長から報告をお願いいたします。

岡坂委員長。

○議会広報調査特別委員会委員長（岡坂 遼太君） おはようございます。議会広報調査特別委員会より御報告いたします。

昨日、議会運営委員会終了後、議会広報調査特別委員会を開催いたしました。内容は議会だより第80号についてです。編集スケジュールや役割分担、また議会だよりのデザイン等について議論いたしました。編集スケジュールについてですけれども、令和7年9月30日を一般質問等の原稿締切りといたしますので、皆様、御協力よろしくお願ひします。

また、議会だより第80号の発行は令和7年11月13日となっております。

以上で報告といたします。

○議長（池田 宜広君） 岡坂委員長、ありがとうございました。

---

## 日程第2 一般質問

○議長（池田 宜広君） 日程第2、一般質問に入ります。

ただいま重本静男君から、令和7年9月4日の会議、一般質問における発言について不適切な部分があったため、会議規則第64条の規定により、お手元に配付しました発言取消し申出書に記載した部分を取り消したいとの申出がございました。

この件につきまして、重本静男君から発言を求められておりますので、これを許可いたします。

重本静男君。（「お手元に配付がない」と呼ぶ者あり）

ちょっと暫時休憩します。

午前9時04分休憩

---

午前9時04分再開

○議長（池田 宜広君） では、再開をいたします。

重本静男君。

○議員（10番 重本 静男君） 皆さん、おはようございます。発言取消し申出についてであります。

このたびは、このような発言の場を設けていただきまして、厚くお礼申し上げます。

去る令和7年9月4日の一般質問において、私の軽率な発言により、議員の方々に多大なる誤解と御迷惑をおかけいたしました。この場をお借りいたしまして深く猛省し、おわび申し上げます。大変申し訳ありませんでした。

○議長（池田 宜広君） お諮りをいたします。この申出を許可することに御異議ございませんか。

〔「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（池田 宜広君） 異議あり。そうしましたら、異議ありますので、これから本件を採決をいたします。

採決は起立によって行います。

重本静男君からの発言取消しの申出を許可することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（池田 宜広君） 賛成12名。よって、重本静男君からの発言の取消しの申出を許可することに決定をいたしました。

○議長（池田 宜広君） 次に、2日目に引き続き、受付順に質問を許可いたします。

初めに、3番、澤田俊之君の質問を許可いたします。

3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 3番、澤田俊之でございます。議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

皆さん、改めまして、おはようございます。それでは、質問のほうに入らせていただきます。

今回の質問につきましては、議員任期の最後の質問ということで、4年間いろんな経験をさせていただいた中で、この町にとっていろんな課題があるなという中で、私自身が今後この町にとって大事なものではないかということピックアップして質問させていただこうと思っております。

では、質問に移らせていただきます。質問事項につきましては、今住んでいる町民のための政策についてということであります。

地区等に出向いての座談会や報告会を延べ59回実施してまいりました。そのほか、子育て世代、独り暮らし老人など各年齢層、いろいろな業種の方の生の声を聞かせていただいた4年間だと思っております。

その中で、まず、町長にお聞きします。この町の現状をどのように認識されておられ

ますか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県下で最も高齢化が進んだ地域、一方で、子供も少ない、それから人口減少率も極めて高い、そういう認識を持っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） まさにそのとおりだと思います。その中で今、町の行政は動いています。その中で、まず第一に町長にお聞きしたいのは、町民の安全・安心の暮らしを守る、その中心は私は町だと思ってます、町当局だと思ってます。そして、その一番大事なところは、災害の発生時、その中心を担う町当局、その本部長を務められる町長がすごい大変な重責を担われてるというふうに思っております。

そこで、まず、お聞きします。災害という概念についてお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 災害の概念。近年、昨日も、今朝方、台風が上陸いたしております。それに伴って、昨日の夕方、防災無線の情報提供、町民課のほうからしていただいております。いかに、災害がどんどん増えつつある、こういう状況の中、迅速な対応ができるか、そういうものが町のトップとしての重責を感じている、そういう思いであります。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） トップの話のほうに移らせていただきます。そこで、私、議員になってから、緊急の話というか、小さい話から、やはり町当局が対応しない、複数の課にわたる対応が必要なときとか、そういういろんな問題のあるたびに指摘をさせていただきました。そして、令和6年の元旦に能登半島地震が起きました。そのときに幾度となく質問をさせていただいてます。災害対策本部、この地震のときの対応の反省、検証をしてくださいよという話をさせていただきました。

当局は検証はしませんでした。ただ、報告は受けました。その報告の中で、町長は、この災害時の対応のトップとしての問題点は幾つかあったと思うんですけども、その問題点を上げていただきたいと思うんですけども、その辺の反省はありますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 能登半島地震においては、今回初めて津波警報が本町付近にも発生したというふうなことで、初めてのそういう津波対策の在り方、非常に従来は台風であるとか大雨、こういったものがメインの避難対策、避難訓練が多かったんですけど、改めてこの津波対策、予期せぬ対策の在り方、その対応をいかにするかということの重要性を感じております。

そういった意味では、当日はすぐ役場に駆けつけたんですけど、もう既に自動車でどんどんどん避難されている方が始まっているというふうな、交通渋滞も起こってお

るという、そういう状況もありました。それから、既に避難をしたいということで、役場周辺にもたくさん人が集まっていました。いち早く多目的ホールの開放をさせていただいたわけですが、予期せぬ災害、これにいかんスピード感を持って対応することができるか、その難しさを感じております。そのようなことを能登半島地震を通して感じました。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） やはり根本的な災害に対する認識、前回の一般質問と変わらないと思います。

予期せぬ災害。町長、予期せぬ災害とは何なんですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまで防災の日に各地域で訓練を行っております。そういった訓練とは、今回の昨年の能登半島地震では津波という、そういう全く津波警報という、従来にない、そういう状況があったというふうなことで、これまでの防災訓練とは全く位置づけが違ったものだという感じしております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 多分その議論をしても前に進まないの、それでは、その反省の上に立って、町民から、それから災害対策本部で改めないといけない点、その辺をきちんと検証して、実際に改正とか、いろいろなものをなされたかどうかの確認をさせていただきます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、情報提供の多元的、一面的な防災情報、防災無線による情報のみならず、現在ではスマホを使った情報提供の在り方、さらに、聞こえなかった場合の電話による聞き直しができる取組、こういったことを行っております。情報提供をいかに迅速にやるか、それをこのたびの大きな見直しの点だと思っております。情報提供のスピードアップ、それから情報提供の、よりの確な情報を多元的に提供する、こういう取組を行ってまいりました。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 多元的とか、そういう表面的な話はよろしいです。私、今回、町民のためにという視点でお話をさせていただきます。

町民のために情報提供とか、そういう話、あります。でも、災害対策本部のトップとして何をしないといけないか、検証して、見直しして、防災計画で足りないところ、改めないといけないところがあれば、当然改めていただかないといけない。

それで、私がおはっきり言わせていただいて、今回の見直しされておりません。対策本部の本部長、これは町長、代行が、次に来られる方が副町長、次が教育長ということになっております。これはおかしいんじゃないかっていう指摘もさせていただいてます、過去に。その辺はしっかりと見直しすること。

それから、今回の対策本部の中で、消防機関、消防本部の人間が入っておりません。そうすれば、当然、連帯という話の中で、第一線で活動する消防団、消防署、その連携が取れてないということなんですね。その辺の見直しもちゃんと指摘はさせていただいてたつもりです。何一つ前に進んでない。町の安全・安心のためにトップとして何をされた、その辺をしっかりと考えて、今後、本部の本部長としての責務を果たしていただきたいと思っております。

次に、買物難民等の交通対策についてということです。現状の町長の認識をお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） かつては各集落にお店があり、日常的な食料品をはじめ、買物が各集落の中でできていた、そういうことがありましたが、現在では郊外型大型チェーン店などが出て、どんどんどんどん集落内の店舗が減り、それによって買物が極めて不便になる、一方で、高齢者は増えていく、そういう背景で、現在では買物難民、そういう言葉が、表現が生まれてきております。

本町でもほとんどの集落でそういうお店がなくなってしまう、議員御指摘の本当に買物難民対策、これは非常に日本全体の大きな問題となっております。一方で、岩美町なんかに行くと、そういう集落のある、買物利便性アップということで、この集落の方々がバスなり軽自動車を通して買物ができるといふ、そういう制度もやっているような状況もあります。また、一般の商店も、そういう車に食料品などを積んで販売しているといふふうなことも一部聞いております。

そんなふうな状況の中、この買物難民対策というのは今後の大きな課題ではあるんですけど、一方で、奥八田地域においては、自分たちで車、買物、それから医療、お医者さんとか、そういったところに対応できるような、自分たちで車を買って自主的に運営されていると、買物難民対策もやっているといふふうなところも出てきております。そういったところをぜひ、地域運営組織の立ち上げなどを通して、より町としても、そういった方向性の支援策が必要だといふ具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 現状認識が全く一緒と私は理解させていただきました。

ただ、町長、町長が最初の選挙に出られたときに、この問題は提起されて出られたといふふうに私は理解してるんですね。そして、現状認識をお持ちでしたら、今後の方向性、その辺をお示しいただきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨日、おとといの一般質問にもあったんですけど、この地域運営組織、こういった地域で連携した組織を立ち上げる、それによって地域全体の課題解決、いろんな課題があるわけですけど、課題解決につなげていくということが非常に重要だと思っております。そういった支援策を今後も力を入れてまいりたいと思っております。

ます。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 支援策。最近、当町では支援という言葉が非常に多いんです。ただ、支援と、それから福祉と、何をベースにして考えるかっていうのが非常に大事なところに私は来ていると思います。以下の質問も一緒になってくると思いますが、支援というのは、あくまで他人に任せますよってという考え方なんです、私からすれば。でも、それでは、この町にとって、本当に今後やっていけるんだらうかという話だと私は思うんです。

町長の認識は、遠くの地域だけが買物に行くのが困ってるというふうな認識だと私は理解しました。今はそういう時代では私はないと思ってます。浜坂地域の町内の方が、じゃあ、買物に行くのに、どういうふうにして行かれていますか。御存じですか、町長。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 買物、病院などを中心に福祉タクシーをずっと充実を図っております。あと、家族、それから友達、そういった方々と一緒に買物をするというふうなことも聞いております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 現状をそういう認識を持っておられるのであれば、当然困っとられるということですよ。でも、その声に対して何もなされてない。

福祉タクシー。では、福祉タクシーを出される対象はどなたでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 65歳以上の障がいのある方、それから75歳以上の個人、これまでは世帯だったんですけど、個人に対して500円券を年間24枚、対象はそういうふうな方々であります。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 今まさに困っておられる、そういう方がたくさん出とられるんです、どの町内、全ての地域で。そうすると、やはりこの交通網の整備って再構築しないといけない、支援だけでは対応し切れない問題だというふうに思いますので、再構築のほうを考えていただくよう提言させていただきます。

次に、地区・町内会の組織運営についてであります。この認識を町長にお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町内会の組織運営。町内会の高齢化、それから独り住まいが増えることで、町内会同士の統合っていいですか、合併っていいですか、2つの町内会が1つになるとかいう、そういう傾向が進んでおります。そういう中で、いろんなイベント、イベントっていいですか、清掃作業であるとか、ごみ当番であるとか、そういったものがなかなかスムーズにいかなくなっているというふうな流れがあり、そういった新たな課題が出ているという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 新たな課題。新たな課題といえば新たな課題だと思えますけども、この地区・町内会と今回、私、書かせていただきましたけども、ほかの団体、身近なものでいえば、消防団の運営、団員確保等々、これはもう社会情勢の中で致し方がない状況の中で今運営されていると思います。そういうことで、組織再編とか、当然これも地域で元は運営されてた組織ですね。それを何とか存続させないといけないということで、試行錯誤して今進められています。

この地区・町内会についても、もうその見直し、その辺は当然、早かれ遅かれ出てくる話です。その中で、私が今このお話を出させていただいたのは、行政はある一面、地区の組織に非常に手助けをしていただいている現状があるというふうに思っております。そうすると、その中で行政は何を考えないといけないかといえば、地区役員を世話する方、その辺の労力とか、そういうものを少なくしていったらあげないと、地域、町内会が守っていけないではないかという思いでこの質問をさせていただきますけども、その辺に対する対応は今後検討されているんでしょうか、お伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 既に集落支援員、こういった方々を、集落っていいですか、地域に配置をして、いろんな課題、集落が持つ、地域が持つ課題解決に協力をさせていただいている、そういう現状であります。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 先ほど私は、今回の質問は町民、要するに事業じゃなくて、一番大事な町民の皆さん。集落支援、確かにいいです。いいですけども、基本的な、じゃあ、集落支援の方が地区の組織運営に直接関わっていくんですかね、どうなんですかね。一面では確かに大事なことだと私は思います。ただ、町民の皆様が生活する上の中で、この一番小さい行政と言ったらちょっと語弊があるかも分かりませんが、地区を大事に持っていくんだという中で頑張っておられる方々、そういう方々の運営に対して行政は今後どういうふうな向き合い方をされますか。町長のお考えをお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、集落支援員制度、これの充実が一番だと思っております。

それから、2つ目としては地域コミュニティの担い手を育成すること、これは人材バンク制度という制度があります。こういった導入を考えていきたいと思っております。それから、地域全体のコミュニティの支援、これは現在の担い手不足に対応するため、役員体制の簡素化、それから輪番制の柔軟化、それから、地区によっては活動の在り方を見直し、住民の負担軽減する必要があると考えております。

それから、次に、社会福祉協議会、それから地域包括支援センター、こういった組織との連携強化、そういったところ、それから、現在、ITの時代であります。IT活用

をした集落の支援策、そういったこともあります。それから、外国人が現在かなり入ってきていただいております。そういった外国人なども含めた方々の地域運営の参加、こういったことが考えていけると思っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 多分、私の視点と町長の視点とは少し違うと思います。少し具体的にお話しさせていただきます。

各地域、町長のおっしゃるとおり、高齢化、人口減少、いろんな問題があって、町内の主要幹線はきれいです。ところが、一步裏に入った小道、その辺を、町長、歩いたことおありですか。草ぼうぼうで歩けないところも出てきております。でも、1軒そこに住んでおられる方がおられます。そういうのを地域の皆さんでしっかり生活を確保されてる。でも、高齢化だから、その手が行き届かなくなっている。そういう現状の中で、行政の在り方、その辺を考えていかないと地域はもたないんじゃないですかという私は思いで質問をさせていただいてます。

それから、河川愛護、道路の草刈り、本当に若い方の負担ってどんどんどんどん大きくなってらるんですね。この大きな町の維持管理、道路網、そういう生活道路を守るために、みんな一生懸命やってるんです。その中で、行政の支援、コミュニティー、確かに大事です。コミュニティーがなければ地域を守れません。でも、一番土台のそういうところに目を向けて行政はしてあげないといけない、今そういう時代になっていると私は思うんですけども、町長、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の意見と私も同じように考えて、同意見であります。本当に目配り、気配り、細かいところまでやっぱり対応してあげるといのが必要かなと思っております。

道路作業においては、草刈りにおいては、作業の方々、会計年度任用職員の方々にも協力していただいて、この集落で、高齢化でそういった作業ができない地域には出向いていただいて、草刈りの作業なども積極的にしていただいております。極力、議員御指摘のように、そういう活動をしていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 極力じゃなくって、これは根本的な考え方を改めないとなかなか地域を守っていくというところにはつながっていかないんじゃないかなというふうに思いますので、しっかりと対応のほうをしていただくようお願いしたいと思います。

その関連でもあります。4番における行政における公平性の確保についてということで、町長は現状、町内の公平性は保たれているというふうに御認識かどうか伺います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当然、公平性、公平公正であるということは行政の基本だという具合に考えております。全ての町民がひとしく行政サービスを受けられること、また、個別の事情によって、判断や対応が変わることがないように、公平公正な行政運営に努めています。そのようなことを基本に行政運営を行っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） それは基本的な考えで、当町においてそれはできていると思われておられますか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういうスタンスで取り組んでおります。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） いろいろお話の中であります。そして、私も、冒頭お話しさせていただいた座談会等でいろいろお話を聞かさせていただいています。一番出てくるのが下水道の料金の話、そして、そのときに、私は今まで知らなかったというような話も出ております。やはりそういうことが町民の皆さんに理解がされていない現状というのは、そういう情報を流されない、流してない、議員の責任でもあるかも分かりません。でも、その一番大きな大本は、もうその辺はできてるんだろう、できてて当たり前なんだろうという感覚なんだと私は理解するんですね。ですから、公民館の使用料とか、いろいろな部分の使用料とか、その辺も公平性、その辺、確認されたことありますか、町長。20年間、合併して20年たってます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 極力公平であるべきだと考えております。下水につきましても、令和10年度をめどに基本的な料金の在り方、適正な料金の在り方を現在考えているということで作業を進めております。

○議長（池田 宜広君） 公民館の、町長、料金の違いを把握できてるかと。

○町長（西村 銀三君） 公民館の具体的な点については、検討という、そういうことはなかったと思うんですけど、この差があるかどうか、一度確認したいとは思っています。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） そういう使用料、一回きちんと調べられて、利用料の統一、公平性、しっかりと確認して、20年もたって、今なおその辺が統一されていないというようなことのないようお願いしたいなと思います。

そして、この公平性の中で、町長はいろんなところに支援をされています。行政で支援をするというのは、基本的にはある部分、自己負担を求めるとというのが大原則だと思うんですね、利用者に対して。もう一方的に全て行政がお金を見るというような時代は昔からもありません。今後もそういうことをしたらいけませんと私は理解しています。特別な理由があってやるのであれば、それは当然行えると思います。でも、いろいろな部分で、私、いろんなところでその公平性、支援策のお話をさせていただいています。でも、

一向に改善されません。その辺の考え方を教えていただきたいんですけど、なぜそういうふうな。

一例を挙げさせていただきます、理解ができないかと思われまして。子供たちの支援、子育て、町内に住む子供たちはひとしくなければ私はいけないと思います、大事な子供たちです。それを、浜高支援だからといって、修学旅行に補助を出す、それから交通費の補助を出す、ほかに通っておられる方はこの町民じゃないんですか、公平性が担保されてるんですか。いろんな視点でその辺を考えられないと行政の信頼ってなくなるんじゃないんでしょうか。町長、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この見方っていうか、判断によると思うんですけど、浜高の支援は、浜高、地域に唯一ある高校、これをきっちりと町は支援することで、皆さんに安心して、将来の浜高、人材育成につなげていく、そういう視点であります。浜高の支援策であって、そういうサービスとか、公平とか、そういう視点の話とはちょっと違うという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） そのお話、多分、根本的な考え方の相違だというふうに私は理解しますんで、お金を出すということは経済負担なんですよ。要するに親御さんに対する経済負担の軽減、浜高支援ということも一方では見えるかもしれませんが、普通に考えれば経済支援だと。これは兵庫県の県立高校の無償化のときの話も、いろんな話もありました。考え方の相違かも分かりません。ただ、見方を変えれば、公平性が欠けてくるような見方もなされる事例だというふうに思います。ですから、町長にとってはもっと大きな視点で見ていただいて、浜高を支援するんだったら、大きな視野で見ていただいて、浜高存続に向かっていただけたら私はいいと思います。ただ、公平性の原則をしっかりと認識して行政運営をしていただければ、町民の皆さんから行政の信頼がなくなっていくんじゃないかなという思いでこのお話をさせていただきました。

次に、財政基盤についてお伺いします。町長の財政に対する基本的な認識をお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この公平性であります。一方的にそう言われるんですけど、例えば子供医療費、高校生までの所得制限を撤廃したり、そういう公平性は一方できっちりと念頭に置いて、一つの施策として行っているということは御理解をしていただきたい。地域の高校をやっぱりきっちりと、将来を見越して維持するということは当然のことではないかと考えております。

財政でありますけど、財政の基本であり、自主財源、今、20%少しなんですけど、これをどう維持するかというのは、人口の在り方、それからいろんな、入湯税、それか

らたばこ税、それからゴルフ税、こういった自主財源の充実、観光客が増えれば、入湯税も現在は約3,000万円あるんですけど、それも増えていくというふうなことで、自主財源をどう着実に増やしていけるか、そういうのが大きな課題となっております。将来にわたってやはり持続可能な町となるためには、そういった意味で財政基盤の確立、これは非常に重要であると考えております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 自主財源の確保、これは非常に大事な問題だというふうに私も思います。ただ、現状認識の中で、そんなに大きく増えるものなのでしょうか、それに頼って行政を進められるものなのでしょうかというところで、私、疑問があります。

ですから、いろんな部分で観光を誘致する、当然経済の活性化、いろんな部分で、いろんなところに波及されます。そういうものも非常に大事だと思います。ただ、今まで質問させていただいた、町民の生活を守る上で、しっかりと最低限のものは確保しないといけない。その中で、一番大事なものは基金だと私は思ってます、財政調整基金だというふうに思ってるんですね。財政調整基金に対する認識、どういう、基本的な、どのぐらいあったらこの町にとっていいのか、その辺の基本的な線をお持ちかどうか、町長にお聞きします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一般会計の何割とか、基準はあるわけですけど、本町では現在約22億円ぐらいあります。それ以外の、地域振興基金であるとか、いろんな基金を含めると46億円、それから国民健康保険、それから介護保険、こういった保険、それから残土処分場の基金、こういったものを含めると約60億円以上あるというのが現状であります。

財政調整基金というのは、いざというときの基金となっておりますが、それ以外に本町は、ほかの町でもそうですけど、財調という名前ではないんですけど、まちづくりのためのいろんな基金を持ってる。最近では森林環境税、こういったものも増えてきております。そういった財源をきっちりと将来に向けて担保、それから、いざというときに使える、そういう未来を見越した基金の使い方を的確にやっていきたい、そう思っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 基金って何のためにあるんですかね。町長、基金とは。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基金は、それぞれ目的を持ってつくっております。森林環境税もそうですし、地域振興基金もそうですし、国民健康保険の基金もそうです。それぞれの目的があります。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 私もそういうふうに理解してます。ということは、基金って、ちゃんと目的があって基金を設立するためには、ちゃんとこの基金は何のために使いますよっていうことを、ちゃんと目的があって基金を行ってますよね。ということは、好き勝手にほかにお金を使えないということなんですよね。ですから、町長は、基金がたくさんありますよ、たくさんありますよというお話をされております。でも、一般財源に持ってこれる基金、これは私は限られていると思います。

それから今、基金の合計が何十億あるというお話もされました。ところが、本年度予算の当初予算の財政調整基金の残額は幾らか御存じですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） たしか17億円ぐらいだったと思っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 副町長、改めてお聞きします。

○議長（池田 宜広君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 当初予算において財政調整基金から繰り入れて予算化をしていくということで、目的というお話がございましたけども、財政調整基金については、そういった当初での一般財源にして繰り入れる、また、途中の補正におきましても、財源確保ということで、後で交付金とかの出る中で一時的に財政調整基金を充てると。財源調整という意味合いが財調にはございますので、当初予算で繰り入れて、それが決算でそのままになるという例からいいますと、後で、非常にまた財調基金については、交付金とかで補填をされて確保されるという性格を持っておりますので、そういった中で、当初予算で今年度そういった額が投入されておきましても、決算の段階におきましては、またそれは揺り戻しがあるというふうな認識を持っております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） それは認識の上で聞いております。ただ、入らないこともあるんですよ、逆に言えば、補填されないということもあるんです。予算というのは当然執行するのを前提にしてるんですよ、残ることを考えて予算はつくらないんですよ。その考え違いは、考え違いというのは言葉が違います、考え方は少しおかしいように私はそう思っております。

ですから、本年度の当初予算の財調、12億数千万円だったと思います。昨年よりも減ってると思います。そういう運営をされてる。だから、一般財源がないときに財政調整基金を持っていく。極端な例を挙げれば、ふるさと納税が2億何千万円だ、3,000万円だというお話をされてます。これがなくなったら、当町は財政調整基金から繰り入れないといけないという話になってきます。ですから、その辺の財政基盤、その辺、いろんなことを考えながら事業推進しないといけない。

そして、この町には多くの課題が残ってます。今言われてる大庭認定こども園、4億2,000万円というお話も出てます。町民プール、10億円というお話も出てます。そ

して、何より、今まで議員のほうから基金の積立てはどうかとかいうようなお話も陰のほうでさせていただいてますけども、浜坂病院、庁舎の建て替え問題、いろんな問題をこの町は抱えています。建物についても、ほかの同規模程度の町と比べて、公共施設が1.4倍もある。そして、この町の人口はどんどん減っていく。当然、収入からいろんなものを縮小して対応していかないといけない。その中の財政基盤をしっかりとつくっていかないといけない。その辺をしっかりと考えて予算等をしていただきたいというように思います。

次に、最後になります。将来へ向けた教育の充実強化についてお伺いします。

町長の教育とは何でしょうか。（「何て」「教育と」と呼ぶ者あり）町長の教育ということについての基本的な考え方、この町にとっての教育、どういう方向性を持っていく、そういう、どういう教育に対する思いがおありでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） やはり将来、自分で自分の選択を決め、自分の足で立っていく、そういうのが教育の大前提にあると考えております。

○議長（池田 宜広君） 3番、澤田俊之君。

○議員（3番 澤田 俊之君） 町長、教育は町の根幹を私はなすものだというふうに思っております。日本全国、教育を充実させたところの市町村は人口減少は私は少ないと思っております。ですから、この町で一番必要なのは0歳から中学校までの基本的な教育、この充実だというふうに思っております。だから、こども園、その辺もしっかりと考えながら町の教育を進めていただきたいと思いますけど、その御回答で私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ありがとうございます。

○議長（池田 宜広君） これをもって澤田俊之君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩をいたします。

午前 9時58分休憩

午前10時10分再開

○議長（池田 宜広君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

次に、7番、浜田直子君の質問を許可いたします。

7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 7番、浜田直子でございます。議長より許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

1項目めの喜ばれている子育て支援のますますの充実を図るにはについてお伺いいたします。当町は、この「ぽかぽか子育て新温泉町」にもあるとおり、大変子育てが充実

してまいりました。8年前に比べると大変いろいろなことに取り組んでいただいています。県下でもトップクラスということで、保護者の方からもよく喜ばれています。

命がけで子供をお母さんは産んでいます。大切な子供の命を守るために、皆さん頑張っておられます。そうした中で生まれてくれた子供たちを、町民の皆さんでお祝いの気持ちを表せてほしいというようなことを提案させていただき、それからますます充実した施策、支援に取り組んでいただき、大変喜ばれています。

今でも充実していますが、今後、子育て支援の予定がありましたらお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 子供支援策、切れ目のない支援というふうなことで、健康課を中心に頑張らせていただいております。子育て世代包括支援センターを中心に「すこやかに」におきまして、保健師、助産師、管理栄養士、歯科衛生士が妊娠、出産、乳幼児期において、電話や訪問、それから対面相談で保健指導をしていただいております。また、産後ケア事業として、産前産後サポート事業、妊婦、産婦に対するいろんな健診費の助成、また紙おむつ等の助成、そのような経済的支援、それから昨年からはスマホ向けの支援アプリを導入しました。母子保健事業のイベント情報、いろんなお知らせをタイムリーに提供することができております。今後もこういったきめ細かい支援策をやしていきたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ますます期待が持てる施策だと思いますので、続けていただきたいです。

その中でも、そうした子育て支援のおかげで3人目、4人目を産まれるお母さんが1人目より2人目、2人目より3人目の子育て支援の厚さをすごく感じていますというようなことも言っておられましたし、町外で出産された方がこの町で出産したかったというふうに言っておられる方もおられ、これから本当に子育てに優しい町ということをどんどん定着して行っていただきたいです。

かねてより提案させていただいていました遊び場ということで、牧場公園等でも大型遊具をしていただきました。ですが、やはり近くに、浜坂地域にも大型遊具が欲しいですし、もっと身近、日々使える公園っていうものが、公園の充実っていうのは残念ながらそんなに進まなかったのではないかな、少しは進みますけど、進んでないような気がいたします。

そしてもう一つは、やはりこの異常気象っていうあれでもないですけど、日々大変暑くて、夏でも外で遊びにくい。冬はこの地域、雪が降ったり雨が多くて、また外で遊びにくい。そうしたときのための屋根つきの遊び場、もしくは屋内での遊び場というものがやはり整備が遅れているというか、そういうものがあったら、もっと子供たちが近くで遊べて、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に過ごせる、また、町外からも遊びに帰ってきてくれるというようなことが増えてくるのではないかと思います。

ますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 温泉地域にはドームというのがある、かなり利用率も高いということを聞いております。この浜坂エリアではそういう場所がないというふうな状況があります。この山陰地方、雨、雪が多い地方であります。今後の課題としてお聞きいたしておきます。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） では、期待しております。

では、次に、病児・病後児保育の今後の見通しを伺います。

就任というか、就任して以来、病児・病後児保育を訴えてまいりました。いよいよ計画も立ち、進むのかなと期待しておりましたが、今の現状をお知らせください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 所管課がこども教育になっておりますので、教育長のほうで答えをしていただきます。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 病児・病後児保育につきましては、浜坂病院の敷地内での開設に向けて今、こども教育課と浜坂病院とで協議を行っております。現在は事務担当者のほうで確認作業に入っております、候補地での開設が可能かどうかを照会しているところであります。もしそれが可能であるということが判断された場合には、予算編成への協議に向かいたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） それでは、計画は進んでいるということで大変期待しております。お母さんたち、病児・病後児保育を待っております。以前と違い、病児・病後児というのは大変休まないといけない期間が長くなっております。また、同時に働いておられるお母さん、保護者の方も多いので、ぜひそのように進めていただくことを期待いたします。

それでは、続きまして、なぜ認定こども園、浜坂、大庭ともに園の整備は遅れてしまっているのでしょうか。経済論ではなく、命を大切に、今、先ほどの同僚議員からの質問もありましたが、災害というのはいつ起こるか分かりませんし、災害に対する備えというのは行政にとってとても大切なことです。そうしたことを踏まえた中で、このように認定こども園の整備がなかなか進まないというのはなぜ、どうして遅れてしまっているのか、現状と意思をお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまで何度か提案をさせていただいてきておりますが、議会のほうで認めていただくことができなかったという、そういう背景があります。今後、議会の皆さんにも御理解をさせていただいて、一刻も早く取り組んでいきたいなと思って

おります。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ということで、議会に責任があるということによろしいんですね。そのような認識でよろしいですね。

町民の代表である議会、議員が一番町民の声に応えることが議会にとってとても重要、大切なことではないのでしょうか。町民の声を大切にし、否定するのではなく、請願・要望の声を聞いて政策にどのように生かすかが議員の仕事なのではないのでしょうか。こども園に預ける親の気持ちが一番大事だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 二代表制の中で、私は前回、浜坂認定こども園、現在地という、そういうのを第1番目に掲げて今日に至っております。そういう背景もありまして、なかなか議員の皆様方の理解が進まなかったということで、改めて町民の思い、そういう思いもあると思いますので、理解をしていただけるよう頑張りたいとは思っております。

○議長（池田 宜広君） 町長、議会に責任があったかどうか、そういう理解でいいですねという質問でしたが。

○町長（西村 銀三君） そこは答えできません。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 議員にとりましても公約を掲げて皆さん通ってきておられます。公約というものはやはり大切なものです。皆さんその公約を聞いてこの場に選ばれてこられてると思います。そうした公約を実行するためにも日々努力されています。浜坂認定こども園、大庭認定こども園に通われている保護者の方たちは、一刻も早い安全で安心なこども園を求めています。大庭認定こども園に関しましては、保護者の声で要望書も当然出ておりますが、大変多くの賛同をいただいているようです。保護者の思いとしましては、やはり50年前の建物では今の保育の現状に沿っていないというところが、皆さん承知だとは思いますが、そのような現状です。そうした現状を一刻も早くしていただく、いい、子供たちの喜ぶ、過ごしやすい、安心・安全な園にするためには、本当に早急な対応が求められています。どんどん遅らすことによって保護者は心配になっています。特に地震とかはいつ起こるか分かりません。そうした中で、もし何かあったら、誰が責任を取ってくれるんですかっていうような声もお聞きします。そうした中で、一刻も早い整備を求められています、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この耐震化、老朽化が本当に極めて進んでいる背景があります。何よりもとにかく早く耐震化、改修が必要だと思っておりますので、改めて議会の方々にそういったことを御提案させていただいて、スムーズな事業着手、改修が進むことを祈っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） また、保育に関しましても、保育者が大変困っているとか、不便を感じてるような建物でございます。職員室に個人の荷物も置けず、保護者さんからの声ですが、個人の荷物も置けず、荷物置場にしている小さな部屋で入れ替わり立ち替わりでの更衣、着替えをしていたり、トイレも男女別ではなく、大庭ですが、洋式と和式が1つずつのみ。トイレは行事の際には保護者も利用するものです。会議室や支援児が落ち着くための別室、発熱児が迎えを待つ間に待機、隔離できる別室もありません。老朽化だけでなく、令和の基準に合っておらず、先生方の働く環境も十分ではないと思います。行政のほうは提案はしてくださっていますが、財政的な理由等を上げて、なかなか進まない現状です。財政的にも当町では幸い過疎債が利用でき、この過疎債はこういった事業に対し、元利償還金の70%が地方交付税として国から補填されるため、元金と利子、両方合わせての70%ですけど、市町の実質的な負担は30%に抑えられるというふうな、そういったような有利なものもあるので、そういったようなものを利用し、一刻も早い子供たちに安心・安全を求めてあげてほしいと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 投資に対する過疎債であるとか、いろんな補助制度があります。未来への投資については、やはり積極的な考えは必要と考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 先ほども言いましたけど、2022年12月には浜坂認定こども園から3,100名を超える署名、また、6月には保護者会長のほうより、大庭認定こども園の保護者会長より大庭認定こども園の早期整備についての要望書が出ております。そういったような声を大切に、早期の整備を求めますが、また同時に、再編についての話題にも触れられ、このことが進まなくなっています。新温泉町は就学前の施設が4園ということになっています。ほかの市町に比べると当然少ないのですが、香美町ですと、人口1万5,000人に対しまして12施設がございます。豊岡市は7万1,000人いらっしゃいますけど、31施設あります。保育所、認定こども園、小規模保育所、幼稚園等、合わせると31か所です。養父市も2万人で11か所、朝来市が、2万7,000人で13か所あります。そういったようなことを比べますと、当町は大変少なく、また保護者は、保育環境というのは自分の住んでいる地域の近くか働いている場所の近くを求めることが多くなっております。そうした中で再編を考えるとというのは、選択枠が減ってしまう。手厚い保育環境がどうなるのかなというような不安もおありのようです。そういったような再編につきましては、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 保育園っていいですか、こども園、できるだけやっぱり地域の中で子供たち、送迎も含めて地域で大きくなるというのが、ちっちゃいときはそういっ

た方向がいいと思います。だんだん小学校、中学校、高校ということで、何ていいますか、一つになっていくような、そういうのがより自然かなと考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 当町にはございませんが、おっしゃるとおり、保育所、小規模保育所、10人までの保育所等を設置しているところが、当町以外には保育所が設置されています。やはり近くで手厚く、2歳まではこども園にバスに、送迎バスに乗せていただけないので、保護者が送迎しないといけないんです。そういったような中で、遠いところに行くっていうのは保護者にとりまして大変負担も多くなります。やはり近くですぐ、また、熱を出したり、けがをしたり、小さくなればその分のいろんなこともございますので、手厚くて近くて安心してお願いできる保育所、小規模保育所等はニーズが高いのではないかと思います。そうした中で、また、0歳児、ずっと求められています。1歳児っていうのは4月1日に1歳ですので、長くて1歳11か月までは認定こども園では現在のところ、浜坂と大庭では見ていただくことができない。そういったような環境の中で、0歳児を育てるお母さんは、また大変な負担も増えてまいります。豊岡市ではちなみに生後2か月から預かっただけの小規模保育園もございます。大抵0歳児を受け入れるようになっていきます。そうした中で、病院に近い大庭認定こども園は0歳児にも適しているのではないかなというふうにも思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 子供の育つ環境、これはきちりとやはりカバーする必要があると思っております。できるだけ、0歳児も含めて、そういう環境整備を早く進めたいと考えます。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 人口減少を理由に園を減らしてはという提案が多いんですが、また教育長、就任されてありがたく思いますし、大変心強いんですが、教育長のお言葉の中に度々6年後の再編を目指して、大庭認定こども園を整備していくというような言葉もおっしゃいますし、また先日、浜坂認定こども園を整備する際に、そのときに再編を考えるとというようなニュアンスの発言があったのですが、そのようなことはいつどこで決められたというのか、相談されて決められた言葉なのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今の御質問は教育長のほうから答えていただきます。

○議長（池田 宜広君） 答弁についてはある一定の方向性を出してほしいです。この案件によって町長が答えたり、教育長が答えたりというのではなく、ある一定の方向性、教育なら教育の方向が答えるというのが本来ですので、今後よろしく申し上げます。

森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 前任の山本教育長と協議する中で、私の思いとして伝えたところでありまして、公的にこれから検討するという言い方をさせてもらっておりますので、決定というような意味合いで申し上げたわけではございません。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 両方これから検討していくということですか。どちらのほうで検討していくのでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） それについて御意見を賜りたいということをお聞きしたところでございます。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 保護者の方は大変今の状態に危機感というか、そういうものを持っております。実際、要望書も出て、小学校でも要望書も出しておりますし、そういったような地域の方の声を一番に聞いていただいて進めるべきと思うのですが、やはり6年後っていうのをあまりに言うておられましたので、そのようなことはいつ決まったのかなっていうのは不安に思っておられる方が多いと思いますので、今後そういったような思いをおっしゃっていただく場合には、ちょっと気をつけていただけたらありがたいかなと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 言い訳ではありませんけれども、前教育長といえる中で、今、0歳児がこれから小学校に向かっていく、この機会が一つのきっかけであるだろうということで引き継いでおりまして、そここのところで検討させていただきますということだけを引継ぎの中で申し上げたことをちょっと伝えただけでございます。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 子供たちを地域で育てる、ふるさと愛を育てるということも視野に入れていただき、そういったような御検討を続けていただきたいと思います。また、人数を増やす努力、出生数を増やす努力、人口を増やす努力をされた上で、その後、していただければと思います。今が少ないから6年後にどうっていうよりは、まず人口を増やす、そちらのほうを向かうのが行政の先の話ではないかと思っておりますので、地域の声を聞きながら進めていただけるよう期待いたします。

それでは、次に、浜坂高等学校の支援策についてお伺いいたします。

今でも、先ほど来出ていますように、バス通園支援や支援員さん等、バス待ちカフェの立て役者というか、支援員さん等の活躍が話題になっています。また、修学旅行も先ほども出ていましたが、そういうふうに支援いただいておりますが、ますます浜坂高校の発展、強化に向けての支援策等は考えておられますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この浜高の支援につきましては、教育長のほうでお答えをして

いただきます。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 今お話がありましたとおり、浜坂高校に対しましては、浜高支援協議会に対して学校の魅力づくり、生徒の修学旅行の支援として補助金の交付のほうをさせていただいております。また、人的にも浜高支援員の配置や学校支援員、ALT等の派遣などを行ったりもしてきております。来年度から連携中高一貫教育へ移行しますので、金銭面での支援も大事ですけども、中高の連携がより図れますよう、ソフト面での連携を強化していきたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） その中高連携につきまして、メリットというか、どのようなメリットを期待してされたのでしょうか。また、どのような成果が求められるというか、期待されますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 中高一貫教育につきましては、現在のところ、グローバル教育ということで台湾との交流を進めております。高校だけでなく、中学校でも夢が丘中学校で既に行っておったりだとか、浜坂中学校ではニュージーランドとのことを行ったりだとかいう形で、グローバル教育というような面でもつないでいくというような、教育のソフト面での連携強化を図っていきたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ますますの支援をそのように期待しております。

それでは、地域の声を生かしたふるさと教育の充実を図っていただきたいというのが地域の声ですが、ふるさと教育の充実を図る対策はありますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） ふるさと教育という件でありますけども、子供たちのほう、私、何回も、子供たちが自分の足で生きていけるような、そういう学力をつけたいということを申し上げております。それを基にしながら、やはり地域の、新温泉町の未来を担う子供を育てていくのがふるさと教育の役割だというふうに考えております。自分の言葉でふるさとのよさが語れるような、そのために表現力だとか語彙力だとか、それから課題を見つけるような力だとか、そういうことをつけていきたいなというふうに思っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） とてもありがたいというか、心強い、本当にそういう力はとても大切だと思います。また、ふるさとということで地域の方とのつながりや日々のそういったようなものを感じるのには、やはり今の小規模校は適しているのではないかというふうに感じています。そういったようなところを大切にするためにも、今の規模の学校・園を維持していただきたいというような声が多いのですが、その点につつま

してはいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） ふるさと教育のそういう、ふるさとを知ることで教育の中身ではございませんので、先ほどから申し上げておりますように、授業の質を上げるためにどのような規模が適正なのかということを検討していくということで、御理解いただきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） その規模につきましてなのですが、今が望まれているとか、今が充実していると感じている方が多い状況です。そうした中で、これから変えていきたいというような御意向なんでしょうか。確認させてください。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 今、教育界の中では全国学力・学習状況調査というのがあります。もう国が何億円もかけて挑んでいる事業なんです。私はそれが日本のスタンダードじゃないかなというふうに思っております。それを基準に考えていきますと、今、問題一つにしても、算数・数学の答えを求めなさいというような問題はないんです。そこに至るまでにどのような思考をしたかということを問うてくるような形なんです。それは教えられるものではなくて、ある程度子供たちが自分たちの持っている知識を重ねながら、そしてつくり上げていく、そういう理論の強化というのが求められております。それに対してはやっぱりある程度人数が要る。そして、学び合いの場と今、教育の場はなっております。合うということはある程度人数が要るんです。一方的に先生から教えてもらったことさえ理解し、記憶を再生するというのは、もう過去のものになっております。それはスマホであったりだとかタブレットであったりだとかいうことが行っていくということで、教育の流れに沿ったような、そういうことを念頭に置きながら考えていきたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ありがとうございます。それは申し訳ないですけど、当然のことだと思いますし、時代の流れということでしたら、そうだと思いますけど、段階を追ってしていく必要があるのではないのでしょうか。当然ですけど、それはもちろん当然、教育という場で力を発揮していただきたいところです。ですけど、やはり地域に、地域とのつながりや、そういったものも大切ではないか。日々の保護者の活動、子供たちのつながり、そういったものも必要で、人数だけを言うてしまうというのは、今そこまで少な過ぎるといふか、少なくとも充実している教育っていうものがこの町の利点であるように感じています。そういったようなものに対して、数っていうものはいろんな捉え方があるんですけど、基準があるんですけど、一方的に数が必要だから減らして、1クラスの数を増やしていくっていうだけの考えというのは、そんなことはないと思うんですけど、段階的に、絶対それはしてはいけないとまでは言いませんけど、今す

ぐ進めると公言されるよりは、段階的なことを考えていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 何度も申し上げておりますけども、教育の質を上げるというのが私は重要なことというふうに思っております。地域とのつながりだとかいうことは重々承知しております。私も諸寄で活性化委員会でふるさとのことを一生懸命頑張ってきましたので、その点は重々承知しておりますので、そういったことも含めて検討してまいりたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 教育の質、私は今でもとても充実した教育をされてるということも感じております。そのように前向きにこれから進んでいただけるということで、ますますこの町の教育がよくなるということで期待しております。

それでは、次に、「相撲の町」の対策といたしまして、相撲の町として伝統を守り、引き継ぐ対策について所見をお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨年4月、大相撲浜坂場所が開催されました。本町からは浜中出身の力士3名出て、頑張らせていただいております。また、相撲場におきましても現在、従来相撲場を維持されていた事業者の方々が、新しく令和7年10月にできるというふうなことも聞いております。相撲の町、かつては力道山もこの浜坂に来て相撲をされております。最近ではわんぱく相撲も大変盛んになってきております。そういった面でもっともっと相撲の町、浜坂をPRしていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ありがとうございます。具体策が何かあればありがたいです。実際、事業者の方が相撲場を新しくしてください。本当に子供が減っているこの御時世にそうやって新たに挑戦というか、そういったようなことに向かっただけというのは、本当にありがたいと思います。そうした中、町のほうとしての支援等あればですし、また、相撲人気っていうのは続いております。わんぱく相撲も春には70名を超えるかわいい力士たち頑張りましたし、今度行われる東小学校での相撲大会も70名以上の参加者を見込んでおります。そうしたような中で、相撲を頑張ってくれた方たちがこれからもっとこの地域でも活躍するというか、この地域と縁を持っただけのような、そのような施策というか、そのような何かつながりというものを持っていただけないでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今後検討してみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ぜひ相撲の町として、もっと相撲に関わった人たちがこ

の町で長く、長くというか、ずっといろいろ関わっていけるような施策を考えていただければと思います。

それでは、次の人口増に向けた浜坂道路の完成を見越した町のにぎわい創造のための住宅事情、移動手段、福祉、教育の対応についてお伺いいたします。

浜坂道路の完成に向けて都市部とのアクセスがよくなることにより、交流人口が増えてにぎわいのある町になるよう努力を今しないと間に合わないのではないかと思います。我が町は豊岡市、鳥取市の中ほどに位置する恵まれた環境であることから、期待は大きくなると思います。その分、町内を通り越してしまう、車の減少も危惧されています。

そうした中で、この町、インターから新温泉町に下りてきてもらう方を増やすための方策についてお伺いいたします。また、この町に下りて、下りるというか、この町をどんどん活用していただくためというか、来ていただくために何か対策を考えておられましたらお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今年度、集合住宅を若い人向けなどに新築される事業者に対し、補助制度を設けております。さらに、町営住宅は97戸あるんですけど、そういった住宅の在り方、それから県営住宅も含めて、鳥取に住宅を求める人もかなりいるわけですけど、新温泉の魅力ある温泉など、いろんな自然の魅力をアップすることで新温泉に住んでいただける、そういう施策をやっていきたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 住宅の施策等については同僚議員よりたくさん御質問がありましたので、そのように進めていただければと思います。そして何よりも、そういった人が住んでいただくためには、この町の魅力を上げることが大切だと思います。そうした魅力ある町、人が集まる町、住みたくなる町に向けた対策等、もしおありでしたらお尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 住みたくなる町、いろんな要素が選択できて、自分で何ていいますか、多様性っていいですか、そういう町が魅力ある町につながると思っております。大都会に人が流れていく、東京一極集中も、非常に働く場というものもあるんですけど、非常にいろんな多様性を含んだ町、そういったところにどんどん人が流れていくのかなと考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） おっしゃるとおりだと思います。また、魅力ある町ということで、魅力あるまちづくりも必要なんですけど、今ある魅力を上手に発信していただけないかなというのを常日頃思っております。都会の方がこちらのほうに転勤とかで来られた場合、本当によく耳にするのが、この町は自然環境もいいし、食べ物もおいしい

し、温泉もいっぱいあってあれだし、ちょっと何かレジャーといえは近くにあるし、本当にこんないい環境の場所があるのに、都市部ではほとんど知られていない、そういったようなことが、以前からですけど、よく聞かれます。そうしたようなメリットを最大限に発揮して、自然が豊かなところはたくさんありますけども、その中でももっと新温泉町らしさを発揮できるようにPRというか、そういったようないいイメージを広げていかないと、人っていうのは、人が集まる以前に注目していただかないといけないと思うのですが、そういったような施策というのは何かお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町では空き家バンクの登録、移住定住にも力を入れております。そういった意味でこの住宅施策は、魅力ある、本町の魅力をよりPRすることで、移住定住はもとより、関係人口を増やしていく、そういうことをやっていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そういったようなときにやはり町の核となる中心的な場所の創生を考えていただけたらと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ちょっともう一回、今の何か聞こえなかった。

○議員（7番 浜田 直子君） 聞こえませんでしたか。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 町の核となる中心地の創生に向けての対応策はありますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 合併して、庁舎も浜坂、ここに移りました。一方で、町の顔というやっぱり駅ではないかなと思っております。先日も国道9号線、湯村温泉の全但バス、非常にきれいに改装されました。国道から来るとやはり、ああ、きれいになったなというふうなことで、町の顔、それは国道9号線の場合は全但バスが非常にきれいになってよかったという意見もたくさん聞いております。JRで来られる方、この本庁がある浜坂にとってはやっぱり駅が町の顔だという具合に考えております。一方で、非常に駅周辺、現在街路整備で大分きれいになってきましたが、駅前の商店街、それから駅の在り方、トイレの在り方、こういったものがまだまだきれいではないと思っております。駅前の活性化に向けて、駅並びに駅周辺のより町の顔としての存在意義が出るような、そういうことをにらんで見直しを図っていきたいなと思っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そのように続けていただけるとありがたいですが、もう少しインパクトのあるまちづくりに向けた、大きな中心的な場所があればありがたいなと思います。また、先ほども言いましたけど、子供たちの元気に集まる場所とか、そう

いったようなものも考えていただけると、またそこが子供たちにとってもあれですし、地域にとっても高齢者までの方が集まってこれるので、そういったような核になるのではないかと思いますので、そういうことも期待しております。

次の、子供から高齢者までがスムーズに移動できる交通手段の方策はありますでしょうか。どうしても通学だけではなく、医療的に、医療関係に通うにしても、こういったことが大きな問題になっているのが現状です。そうしたところの方策をお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 移動手段としては現在、町民バスがメインとなっております。

10路線、41系統で毎日稼働をしております。できるだけ効率的に運用するというふうなことが基本であります。ゼロでバスが動いているという、そういうときもあるかも分らんのですが、一方で、交通弱者に対する、そういう配慮は極めて重要だと考えております。町民バス、現在、町のバスが16台、それから全但からお借りしているバスが5台、合計で21台稼働して、住民の利便性、足を確保する、そういう取組を行っております。さらに、高齢者の方々を中心に福祉タクシーを充実を図っております。福祉タクシーによって病院の利用などの利便性を図っているというのが現状であります。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） そうしたバスや福祉タクシーとか、そういったものというのは大変住民の方にとって心強いというか、助けになりますので、バス、JR等はぜひ維持というか、これからも使いやすくなるように検討していただきたいところです。

また、次の福祉とコミュニティーの充実、そして継続を考えた拠点づくりの対策はあるかということにも関わってくるのですが、手厚い、そういったものも必要ですし、また、拠点としての機能を集めるに当たって、福祉関係とか子育て環境、また商工施設なども維持というか、集まって、より暮らしやすいコミュニティーをつくるのがこれから必要になってくるのではないかと思います。特に高齢者が増え、独り暮らし、また二人暮らしの老人も増えつつあります。そうした中でのコミュニティーを考えた拠点づくりに対する考え等はありますでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、第2次地域福祉計画を策定して、それを基本に進行をいたしております。その中で「みんなで支えあう「地域づくり」」を掲げております。少子高齢化、それから核家族の進展、また単身の高齢者の方々も増えております。御夫婦で生活されている方も増えているという、そういう現状があります。そういった方々をやはり支援するという、きっちりとした支援を行っていくというふうな取組を行っております。

また、交流、触れ合いの場をつくり、いろんな住民、地域、それから社会福祉協議会など、そういった取組を通して、いきいき百歳体操の継続支援、それから認知症カフェ

をはじめとした、そういった施策の充実、そういった地域コミュニティーの充実を図っていきたくて考えておりますし、現在行っております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） ありがとうございます。そのように実際いろいろな縦割りのとか、各部署で本当に大変努力してくださっていて、成果も上げていると思います。ですが、そういったものが横もつながるっていうんですか、ぐっとコンパクトにつながり、一目で分かるというか、充実感が伝わるというか、分かるような施策に向けてもそのよさを生かしていただき、その取組も重々皆さんに理解していただきながら、前向きに進めていただければ、もっともってこの町のよさが広まるのではないかと日頃から感じております。そのような施策を継続していただき、これからも前向きにコミュニティーに対し安心して、この新温泉町で暮らせるというところを前向きに出していただいて、これからも続けていただきたいと思っております。

次に、人口増に向けた努力を行った上で、将来の教育、子育て、就学前施設を考えるべきと思われまます。今後の教育に向けての対応も先ほどもお伺いしましたが、再度お伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今の御質問については、教育長のほうで答えていただきます。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） 教育が安心して受けられるというのは、住みやすいまちづくりの柱になってくるというふうに考えます。ですから、先々、前にも言いましたけども、現状維持ではなくて、時代に合った教育を行うこと、それによって教育の魅力を発信していくこと、そういうことが人口増につながる一つではないかというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 7番、浜田直子君。

○議員（7番 浜田 直子君） 経済論ではなく、これから子供たちが今の喜んでいる姿を大切にしたい、今のこの町のよさを生かした教育を伸ばしていただきたいと思っておりますので、そのように期待しまして、経済論ではない、命を大切に思い、ふるさとの思いを大切にしたい教育を期待して、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（池田 宜広君） 森田教育長。

○教育長（森田 篤志君） おっしゃるとおり承りたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） これをもって7番、浜田直子君の質問を終わります。

先ほど1の3、こども園の園舎整備の遅れは議会の責任だとの発言について、全議員、皆さんに関することですので、全協にて協議に入ります。

暫時休憩をいたします。

午前11時02分休憩

午前 11 時 13 分再開

○議長（池田 宜広君） 再開をいたします。

---

○議長（池田 宜広君） ただいま休憩中に御協議をいただきましたとおり、令和 7 年度新温泉町一般会計補正予算（第 2 号）、令和 7 年度新温泉町一般会計補正予算（第 3 号）及び特別会計 5 会計の補正予算につきましては、休憩のままで説明を受けることにいたします。

暫時休憩をいたします。

午前 11 時 14 分休憩

---

午前 11 時 26 分再開

○議長（池田 宜広君） 再開をいたします。

以上で、休憩中における令和 7 年度新温泉町一般会計補正予算（第 2 号）、令和 7 年度新温泉町一般会計補正予算（第 3 号）及び特別会計 5 会計の補正予算の説明は終わりました。

---

○議長（池田 宜広君） お諮りをいたします。本日の会議はこの辺で延会したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（池田 宜広君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定をいたしました。

本日はこれで延会をいたします。

次は令和 7 年 9 月 12 日金曜午前 9 時より会議を開きますので、議会議事堂へお集まりください。長時間お疲れさまでした。

午前 11 時 26 分延会

---